

## 保険・証券

### 1. 評価対象企業（9社）

かんぽ生命保険、SOMPOホールディングス、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、ソニーフィナンシャルホールディングス（注）、第一生命ホールディングス、東京海上ホールディングス、T&Dホールディングス、大和証券グループ本社、野村ホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）当社は上場廃止となった（2020年8月31日）。

### 2. 評価方法等

#### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	4	27
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	6	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	11
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	14
計		19	100

（注）評価項目の内容および配点は128頁参照

(2) 評価実施アナリストは19名（所属先18社）である。（129頁参照）

### 3. 評価結果

(1) **総括**（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は127頁参照）

- ① 本年度は、**経営陣のIR姿勢等**ほか3分野において、項目の配点変更（内容変更を含む）または項目削除を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は68.4点（昨年度74.5点）、総合評価点の標準偏差は、9.1点（昨年度7.8点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、生保（4社：かんぽ生命保険、ソニーフィナンシャルホールディングス、第一生命ホールディングス、T&Dホールディングス）が61.6点（昨年度70.2点）、損保（3社：SOMPOホールディングス、MS&ADインシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス）が78.6点（昨年度83.7点）、証券（2社：大和証券グループ本社、野村ホールディングス）が67.0点（昨年度69.5点）となり、損保が生保、証券を大きく上回った。また、各社の総合評価点は、昨年度に比べ、全社共に低下したが、特に生保の低下が大きかった。新型コロナウイルスを含めて環境の厳しさが増す中、それぞれの状況についての説明が不十分との意見も寄せられた。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が71%（昨年度76%）、**説明会等**が71%（昨年度77%）、**フェア・ディスクロージャー**が81%（昨年度同率）、**コーポレート・ガバナンス関連**が67%（昨年度76%）、**自主的情報開示**が52%（昨年度58%）となり、**フェア・ディスクロージャー**を除く各分野は昨年度に比べ低下した。なお、**自主的情報開示**が他の4分野に比べて低水準の状況が続き、本年度、**コーポレート・ガバナンス関連**が他の3分野に比べて低水準となった。

④ 評価項目について見ると、全 19 項目中、80%以上の平均得点率は次の 1 項目となり、昨年度の 4 項目から減少した。

・「経営陣および IR 部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか(報道機関等への対応含む)」(平均得点率 85% [昨年度 79%]) (得点率(評価点/配点(以下省略)) : 90%1 社・80%台 7 社・75%1 社)

⑤ 一方、次の 3 項目は、平均得点率が昨年度に比べ低下し、50%台以下となった。

(a) 「有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか」(平均得点率 35% [昨年度 49%]) (得点率 : 15%以下 5 社、35%1 社・70%3 社)

(b) 「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していますか」(平均得点率 50% [昨年度 56%]) (得点率 : 30%台 2 社・40%台 4 社・50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 1 社)

(c) 「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 58% [昨年度 61%]) (得点率 : 40%台 4 社・50%2 社・60%台 1 社・90%台 2 社)

⑥ 非財務情報に関連する次の 2 項目(コーポレート・ガバナンス関連、自主的情報開示の中の各 1 項目)は、次のとおり、昨年度に比べ共に 10 ポイント程度低下した。

(d) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目(例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報)について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明されていますか」(平均得点率 66% [昨年度 76%]) (得点率 : 40%台 1 社・60%台 5 社・70%台 3 社)

(e) 「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報(ESG 情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率 67% [昨年度 78%]) (得点率 : 40%台 1 社・50%台 1 社・60%台 3 社・70%台 2 社・80%台 2 社)

⑦ また、生損保に対して決算発表日を柔軟に設定することを求める声があったほか、各社に対して新型コロナウイルス関連のリスク情報等の充実を期待する声が寄せられた。

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 東京海上ホールディングス(ディスクロージャー優良企業 [3 回連続 3 回目]、総合評価点 80.7 点 [昨年度比+4.8 点])

① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 1 位(得点率(以下省略) 86%)、説明会等が同得点第 1 位(79%)、フェア・ディスクロージャー(85%)、コーポレート・ガバナンス関連(81%)、自主的情報開示(72%)が第 2 位となった。

② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会等やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること、経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションを取る意欲を持っていること」、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」および「同部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていること」が共に最も高い評価となった。また、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」も評価された。

③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明(質疑応答を含む)や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」、「決算補足説明資料が、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」および「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況(合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む)が十分に説明されていること」が共に最も高い評価となった。また、「部門別・地域別など財務分析に必要なデータが、一貫して十分に開示・説明されていること」および「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等(自主的開示を含む)の開示が十

分にされていること」も評価された。これらに関し、海外保険事業のリスクや機会についての開示充実を望む声が寄せられた。なお、「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいること」は、昨年度に続いて平均得点率に達しなかった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が株価に影響を及ぼす重要情報について公平な情報開示に十分注意を払っていること（報道機関等への対応を含む）」が高く評価された。また、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、積極的に行われ、遅滞なく十分なものであること、短期、中長期での業績見通し上、有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していること」および「ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」も共に評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画（ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標、収益性指標やその他の KPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、「コーポレートガバナンス・コードの各項目（例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報）について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明されていること」および「資本政策（資本コストの考え方を含む）、株主還元方針が十分に説明されていること」が共に評価された。これに関し、マネジメントのスキル・マトリックスの説明を評価する声が寄せられた。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が最も高く評価された。これに関し、非財務情報（ESG 情報等）の開示において、ESG 取組項目と SDG s 項目との関係を整理した記載を評価する声が寄せられた。また、「有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」も最も高い評価となった。さらに、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していること」が第 2 位となった。
- ⑦ 以上に加え、新型コロナウイルス関連の影響について一定の前提を置いた上で期初ガイダンスを出して欲しかったとの声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第 2 位 SOMPOホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業、総合評価点 79.5 点〔昨年度比+4.0 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕）**

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**（86%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（82%）が第 1 位、**説明会等**が同得点第 1 位（79%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（83%）、**自主的情報開示**が第 3 位（66%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」が最も高い評価となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること、経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていること」、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」および「同部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていること」も共に評価された。
- ③ **説明会等**においては、「部門別・地域別など財務分析に必要なデータが、一貫して十分に開示・説明されていること」、「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）の開示が十分にされていること」および「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、「決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」および「決算補足説明資料が、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」も高く評価された。これらに関し、介護事業の収益性、中長期目標等の明示を要望する声が寄せられた。なお、「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいること」は、昨年度に続いて平均得点率に達しなかった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が積極的に行われ、遅滞なく十分であること、短期、中長期での業績見通し上、有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していること」および「ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）

を日英両言語でタイムリーに提供していること」が共に最も高い評価となった。また、「経営陣および IR 部門が株価に影響を及ぼす重要情報について公平な情報開示に十分注意を払っていること（報道機関等への対応を含む）」も高い評価となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目（例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報）について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明されていること」および「資本政策（資本コストの考え方を含む）、株主還元方針が十分に説明されていること」が共に最も高い評価となった。また、「中・長期経営計画（ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標、収益性指標やその他の KPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」が最も高い評価となった。また、「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」も評価された。なお、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していること」については、平均得点率をやや上回る程度にとどまった。
- ⑦ 以上に加え、新型コロナウイルス関連の影響について、プラス要因、マイナス要因を開示し、一定のシナリオ下で発生する可能性のある追加的影響額を試算したことを評価する声が寄せられた。

同社は 3 回連続して第 2 位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業**」に選定した。

### **第 3 位 MS&ADインシュアランスグループホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業、総合評価点 75.7 点〔昨年度比-6.5 点〕、昨年度第 3 位〔一昨年度第 3 位〕）**

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第 1 位（76%）、**経営陣の IR 姿勢等**（75%）、**説明会等**（74%）および**コーポレート・ガバナンス関連**（76%）が第 3 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 4 位（81%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会等やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していること、経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションを取る意欲を持っていること」、「IR 部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていること」および「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られること」が共に高い評価となった。また、「IR 部門に十分な情報が蓄積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」も評価された。
- ③ **説明会等**においては、「決算補足説明資料が、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容であること」が高く評価された。また、「部門別・地域別等、財務分析に必要なデータが、一貫して十分に開示・説明されていること」、「事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的情報開示を含む）の開示が十分にされていること」、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）が十分に説明されていること」および「決算説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）や資料が十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていること」も共に評価された。ただし、「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいること」は、昨年度に続いて平均得点率に達しなかった。なお、中期計画の各種施策の振り返り、要因分析とリカバリー策の説明充実を望む声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項の開示が、積極的に行われ、遅滞なく十分であること、短期、中長期での業績見通し上、有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していること」および「ウェブサイトを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を日英両言語で行っていること」が評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策（資本コストの考え方を含む）、株主還元方針が十分に説明されていること」、「コーポレートガバナンス・コードの各項目（例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報）について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明されていること」および「中・長期経営計画（ROE の他、業界の特性を踏まえた利益指標、収益性指標やその他の KPI）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」が共に評価された。なお、マネジメントのスキル・マトリックスの説明が限定的との声が寄せられたほか、体制整備は進んでいるが、ガバナンスの実

効性の向上を求める声も寄せられた

- ⑥ **自主的情報開示**においては、IR Day、ESG 説明会の開催などにより、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していること」が最も高い評価となったことに加えて、「統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」および「有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」も共に最も高く評価された。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。
- ⑦ 以上に加え、新型コロナウイルス関連の影響について、項目別の影響額を記載していることを評価する声が寄せられた。

同社は3回連続して第3位の評価を受けたので、「**高水準のディスクロージャーを連続して維持している企業**」に選定した。

以 上

## 2020年度 ディスクロージャー評価比較総括表（保険・証券）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目4 (配点 27点)	順位	評価項目6 (配点 30点)	順位	評価項目3 (配点 11点)	順位	評価項目3 (配点 18点)	順位	評価項目3 (配点 14点)	順位	
1	8766 東京海上ホールディングス	80.7	23.1	1	23.6	1	9.3	2	14.6	2	10.1	2	1
2	8630 SOMPOホールディングス	79.5	22.5	2	23.6	1	9.5	1	14.7	1	9.2	3	2
3	8725 MS&ADインシュアランスグループホールディングス	75.7	20.2	3	22.2	3	8.9	4	13.7	3	10.7	1	3
4	8750 第一生命ホールディングス	68.5	19.8	4	21.6	4	8.9	4	11.6	5	6.6	5	4
5	8601 大和証券グループ本社	67.6	18.9	5	21.5	5	8.9	4	11.7	4	6.6	5	5
6	8604 野村ホールディングス	66.3	18.4	6	20.8	6	9.1	3	11.0	7	7.0	4	8
7	8795 T&Dホールディングス	63.3	17.7	7	20.4	7	8.8	8	10.9	8	5.5	8	7
8	8729 ソニーフィナンシャルホールディングス	62.2	16.3	8	19.9	8	8.9	4	11.2	6	5.9	7	6
9	7181 かんぽ生命保険	52.1	14.6	9	16.9	9	7.5	9	8.7	9	4.4	9	9
	評価対象企業評価平均点	68.42	19.05		21.16		8.86		12.01		7.34		

**2020年度評価項目および配点(保険・証券)**  
**【評価対象期間:2019年7月~2020年6月】**

<b>1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (27点)</b>	<b>配点</b>
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	<b>12</b>
(2)IR部門の機能	
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	<b>7</b>
②IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	<b>2</b>
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	<b>6</b>
<b>2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (30点)</b>	<b>配点</b>
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別・地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	<b>7</b>
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等(自主的開示を含む)開示が十分になされていますか。	<b>7</b>
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか(合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む)。	<b>4</b>
④決算説明会における会社側の説明(質疑応答含む)、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	<b>5</b>
(2)説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
・決算補足説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	<b>4</b>
(3)決算発表日	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	<b>3</b>
<b>3. フェア・ディスクロージャー (11点)</b>	<b>配点</b>
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
①経営陣およびIR部門が、株価に影響を及ぼす重要情報について、公平な情報開示に十分な注意を払っていますか(報道機関等への対応含む)。	<b>4</b>
②投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。短期、中期での業績見通し上有益な情報、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していますか。	<b>3</b>
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して説明会等の内容(質疑応答を含む)を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	<b>4</b>
<b>4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (18点)</b>	<b>配点</b>
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況や、経営陣としての目的などが十分に説明がなされていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	<b>6</b>
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策(資本コストの考え方を含む)、株主還元方針が十分に説明されていますか。	<b>6</b>
(3)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画(ROEの他、業界の特性を踏まえた利益指標や収益性指標やその他のKPI)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	<b>6</b>
<b>5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (14点)</b>	<b>配点</b>
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、テーマ別説明会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価]	<b>8</b>
②統合報告書、ファクトブックなどにおいて非財務情報(ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか。	<b>4</b>
③有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。	<b>2</b>

## 保険・証券専門部会委員

部会長	村木 正雄	SMBC 日興証券
部会長代理	丹羽 孝一	シティグループ証券
	伊勢 和正	アセットマネジメント One
	大塚 亘	JP モルガン証券
	辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	伴 英康	ジェフリース証券会社 東京支店
	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント

## 評価実施アナリスト（19名）

伊勢 和正	アセットマネジメント One	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
今井 雅	アセットマネジメント One	丹羽 孝一	シティグループ証券
岩下 暢道	三井住友 DS アセットマネジメント	花岡 宏行	JP モルガン・アセット・マネジメント
大塚 亘	JP モルガン証券	伴 英康	ジェフリース証券会社 東京支店
神谷 悠介	SOMP Oアセットマネジメント	摩嶋 竜生	東海東京調査センター
斎藤 佳奈	三井住友トラスト・アセットマネジメント	峯嶋 利隆	ニッセイ アセット マネジメント
坂口 真人	三菱 UFJ 信託銀行	村木 正雄	SMBC 日興証券
坂巻 成彦	野村証券	藪谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
辻野 菜摘	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	渡辺 和樹	大和証券
戸田 浩司	りそなアセットマネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。